

テーマの演出 その1

●大森山公園と融合させた 新スタイルの動物園をめざして

大森山動物園は豊かな自然と森に包まれていることが最大の特徴かもしれない。その自然を活かさない手はないし、自然豊かな秋田を全国に向け情報発信したい。ただし、自然豊かといっても具体的な動物が登場しないと意図が伝わりづらい。

自然の中に潜ませた動物、例えばリスやフクロウなどと森の中で出会うことにより「命とのふれあい」を演出できないだろうか。現在の動物園を南に拡大、大森山の森に動物園を入り込ませる、そんな大胆な発想を展開してみたい。トレッキング感覚で森を歩き自然と命を体感できるゾーンにするのである。ネーミング、「ミルヴェ いのちの森」はどうだろう。演出効果をあげるため、まず秋田の自然を特徴づけるブナの森を再現したい。既存の秋田杉と組み合わせ、そこには特に秋田にこだわった動物のすみかを再現する。内気な性格の秋田産動物の展示には、動物たちのトレーニングは不可欠である。鷹匠技術を活かしイヌワシが人々の眼前で飛ぶなんていかにも感動的だろう。名付けてイヌワシの谷構想。

自然体感ゾーンの実現には動物の確保と高い飼育技術が必要であり、実現すれば大森山動物園の飼育技術が飛躍的に高まること間違いなし。困難へのチャレンジは、ステップアップのチャンスでもある。



▲飛べ フクロウ

テーマの演出 その2

●輝く命のパフォーマンス エキゾチックゾーン

一方、今ある動物園の新たな展開も忘れてはいけない。母屋なのである。このゾーンは外国産動物を中心としたエキゾチックゾーンとして再整備する。適当な起伏は魅力の一つ、何よりもたくさんのスターたちがすでに待機している。「ミルヴェ いのちの森」と対比させ、「輝く命のパフォーマンスゾーン」と名付けよう。エンターティメント性の高い、命がき

らきらと輝く演出で盛り上げてみたいものである。例えば、秋田の寒い季節でも、ミルヴェに行くべ(秋田弁で行こうよ)と言えるような熱帯動物が棲む「ミルヴェ熱帯館」ができれば、という声が聞こえそう。

また、よりダイナミックな動きを演出するため、アシカのプールを現在の10倍くらいに拡大、群れが遊泳する水槽を底と天空から見ることができれば感動ものである。さらには、ポニー乗馬などふれあい体験も楽しさの演出に欠かせないサービスかもしれない。そばには秋田市立美術工芸短期大学もある。動物とアートとのコラボレーションもあったら話題性を呼びそうである。

しかし、エンターティメント性の高い動物園に必要なものがもう一つある。それは、ハート(飼育哲学)を伝える伝道人。そしてゲートにズーコンシェルジュがいたら親切でやさしい動物園になるだろう。「命とのふれあい」は「人とのふれあい」でもある。

テーマの演出 その3

●公園を総合的に活かす 「ぐるっとズー」構想

動物園にひきつけるための要素として、やはり多様な魅力を組み込むことが必要であり、そのことで動物園への厚みがつくし、互いに補完しあい相乗的な効果を生み出すはずである。そんな環境づくりも忘れてはならない。

山頂の展望台、広い芝生のピクニック広場の活用、おしゃれなレストランやショップ、全天候型の人をゆったりと包み込んでくれるレストハウス、動物園とそれらが有機的につなぐ「ぐるっとズー」構想である。回遊性の創出であり、移動手段として「ぐるっと馬車」の運行などなど、夢はつきない。

大森山動物園・公園には、秋田らしを活かしながら、人々が一日過ごせる場として、観る、体験する、遊ぶ、くつろぐ、食べる、こうした多様な魅力を集積させたいものである。夢はまだまだ広がりそうである。亥年にあたり猪突猛進と行きたいところだが、まずはじっくりと腰を据え、手づくり感あふれる夢を絵に描いてみたいものである。夢を実現には市民の理解と応援は欠かせない。



▲トラのハンティングシーン